



愛川ふれあいの村 今月の風景

2024年10月 自然のたより

10月上旬は、気温が30度を超える真夏日があったり、セミの鳴き声が響く日があったりしました。10月なのに暑いと思っていましたが、月の終わりに近づいたこの頃は、日差しは暑く感じるものの、秋の空や冷たい風を感じ、金木犀の香りが漂うようになりました。村内のイチョウ並木では、銀杏が落ち始め、近くを通ると独特の匂いを感じることができます。虫の声も秋模様になり、あちらこちらで綺麗な声が聞こえます。植物や虫たちが秋の支度を始めた今日。我々人間も秋の準備、寒さに備えて体調管理をしていきましょう。(石川)



紅葉が美しいニシキギ



渡りをするアサギマダラ



仲良しニホンザル



切り株からナラタケ



ムラサキシメジ



香り良いキンモクセイ



風で飛ぶセンニンソウ



フクロツチガキ



小さなオチバタケの仲間



フジバカマとヤマトシジミ



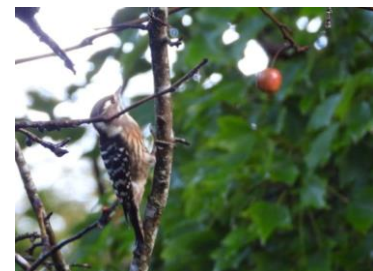
棘が見えるコセンダングサ



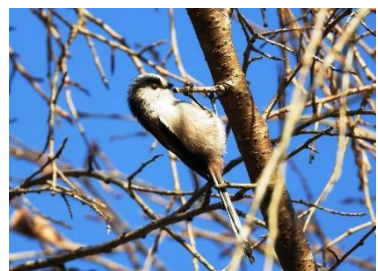
蜜を吸うホシホウジャク



キタキチョウ



コゲラ何思う



餌をさがすエナガ

トピックス

★深まる秋★

今月に入っても最高気温が 30℃を超える日があったかと思うと翌日は 10℃も下がったりと身体がついていくのが辛い 10 月ですが、ようやく秋を感じさせる陽気になりました。ふれあいの村の周りも秋の山野草が秋の訪れと冬の近さを教えてくれます。宮沢林道にはサラシナショウマが咲いています。去年は数頭のアサギマダラが花の蜜を吸っていました。近くでは、キツリフネソウが群生しています。陽当りのいい斜面ではシュウメイギクが紅い花を咲かせています。



村内に戻り野草園に行ってみました。大好きなセキヤノアキチョウジの青い花が風に吹かれて揺れています。キツリフネソウが咲いているのだから赤いつりフネソウも咲いているだろうと探したらやっぱり咲いていました。



モズがエンジュの木のとっぺんで高鳴をはり秋の深まりを感じさせます。ジョウビタキやアオジなど冬の渡り鳥が村を訪れるのもすぐそこに来ています。深まる秋と共に北国からは雪の便りも届く頃です。(高梨)



鳥に食べられて運ばれる種類は、赤や黒でよく目立ち美味しいので喜ばれます。ヌルデやニシキギ、モッコクやヒサカキ、イイギリ等があります。オニグルミやドングリはリスやカケスの冬を過ごす貯蔵的な物で置き忘れた種が発芽する面白さがあります。(吉田)

生き物

★シンジュサン★

今月の生き物は「シンジュサン」という大型の蛾を紹介しします。今年成体の姿は見られませんでした。幼虫の姿が見られました。写真の幼虫は、村内にある「サンショウ」の木の枝についていました。食草の種類はウルシ科やニガキ科など色々な植物を食草としています。

6月頃から10月にかけて年に2回発生します。成虫は10cmほどの大きさと日本トブクラスの大きさです。羽先がヘビの顔のような模様をしていてとても特徴的です。普段生活をしていたらなかなか出会わない珍しい蛾です。

今回見つけた幼虫はこの後、サナギになり、越冬して春先に羽化することでしょう。無事に羽化して美しい姿を見せてほしいです。(小熊)



旬

★ギンナン★

今回は秋の味覚「ギンナン」をご紹介します。公園などに落ちてると匂いが少し嫌に感じますが、周りの実を洗い流すと、硬いからで覆われた種が現れます。それを割ると、茶わん蒸しなどで見る黄色い姿になります。少し苦みのある独特な触感で、私は子供のころはあまり好きではありませんでしたが、大人になりおいしく食べられるようになりました。

ビタミンB6に似た成分を含み、それにより本来の体の働きを阻害し、ギンナン中毒になる可能性があるため食べすぎには注意が必要ですが、栄養価が高く免疫力増強が期待でき、季節の変わり目で体調を崩しやすくなるこの時期にピッタリです。実りの秋。旬の物を楽しみ、健康に過ごしたいですね。(川原)



来月の見どころ

種はとじから・生きる工夫

花の時期が過ぎると種ができません。種はつい見過ごしがちですが、よく見ると様々な生きる工夫が見られます。風を利用する種子は、吹く風を利用してふわふわと綿毛を飛ばすタンポポやプロペラのように舞うイロハモミジやヒマラヤスギ、マツ等があります。

動物にくっついて運ばれる種子はイノシシに似たイノコズチやキンミズヒキ、オオオナモミなどがあります。工夫は、種の先端が曲がって鉤のようになり種子の数が多いたのが特徴です。返りのある刺を持つコセンダングサやブニンジン、バタバタで付着するノブキやチヂミザサ等も目立ちませんがくっ付くと数多く服の上からでもチクチク、バタバタしてとても厄介です。